

第10回宮崎海岸侵食対策検討委員会

資料10－Ⅱ 「宮崎海岸の侵食対策」 P20 誤記箇所

天端の高さの追加検討 (先端部・中間傾斜部分の検討結果)

□ 検討結果 (先端部・中間傾斜部分のまとめ)

観点	検討手法	各観点から必要な天端高	備考
漂砂制御効果	技術的な基準	海拔(T.P.)+2.65~ 2.9 m	
	天端高を低くした場合の越波による通過土砂量を試算	海拔(T.P.)+3.0m以上	・ 天端高が海拔(T.P.)+3mよりも低くなると、漂砂制御機能がより低下する。
施工性	捨石の施工時の安全性	海拔(T.P.)+2.0m以上	・ 捨石天端高を海拔(T.P.)+2mよりも低くすると、施工性が著しく低下する。(施工後に沈下した場合には、被覆材天端高が海拔(T.P.)+2m以上)
経済性	概算工費の比較	(低いほど安い)	・ 天端高が低いほど安くなる。
景観	フォトモンタージュ	(一般に低いほど良い)	・ 天端高が低いほど見通しは良い。
海上からの視認性	出漁限界波高時の視認性	海拔(T.P.)+2.6m以上	・ 天端高が海拔(T.P.)+2.6mよりも低くなると、出漁限界波高時の視認性が確保されない。

- 先端部・中間傾斜部分:天端の高さは、漂砂制御効果、その他の観点を考慮して、
海拔(T.P.)+3.0mを基本とする。

